

醍醐寺(京都市)

だいごじ

ここは醍醐寺総門



醍醐寺

真言宗醍醐派の総本山で、平成六年（一九九四）に世界文化遺産に登録された。山上の上醍醐と山下の下醍醐から成る壮大な寺で、天曆五年（九五）に完成した東塔府城、最古の五重塔（国宝をはじめ、四万点に上る多くの国宝や重要文化財を有している）。

平安初期の貞観十六年（八七四）に理源大師聖空が、笠取山上醍醐に登って観音像を彫刻し、安置したのが当寺の始まりとされており、延暦七年（九〇七）に醍醐天皇の幼願寺となり、次第に大伽藍が整えられた。

応仁の乱や文明の乱により、五重塔を残してすべて焼失したが、慶長三年（一五九八）に豊臣秀吉が北政所らを醍醐の花見に誘ったことをきっかけに、秀吉の厚い掃拂を受けて復興された。

本堂の金堂（国宝）は、慶長四年（一五九九）に紀州現在の和歌山県湯浅の満願寺から移築したとされ、三学院展園（特別史跡及び特別名勝）は、普賢を豪華な桃山時代の庭園で、香吉の権勢をしのがせている。宝室館には、華師如来坐像（国宝）や香吉所用の黄金天目茶碗などが収蔵されており、毎年春と秋に公開されている。毎年四月第二日曜日には、千三百人を従えて盛大に行われたとされる当寺の花見に倣って豊太閤花見行列が行われ、多くの人でにぎわう。

京都府

Daigoji Temple

Daigoji is the headquarters of the Daigo School of the Shingon sect of Buddhism and was registered as the 1,317th World Heritage List in 1994. It was a vast garden spread into the Katsuragi valley on the mountain and the Yamashiro valley at the foot of the mountain. The temple owns about 8000 items of National Treasure and Important Cultural Assets including the oldest preserved pagoda in Kyoto, Padmapani (Padmasana) (designated as National Treasure).

The temple was established in 874, when the high priest Kagen returned up the city of Mt. Katsuragi (Daigoji) to create and ordain a statue of Kannon, after Mt. Katsuragi was designated as a retreat to build the Imperial Palace of Emperor Heizei, who had abdicated with child and after fleeing.

Later, all structures except for the Imperial temple were burned down in 1180. Emperor Takasada held a cherry blossom-viewing party at the site and others here, after that, with Heian-kyo's political decline, the temple was restored.

Kondo (Daigoji Kannon), the main hall, was originally transferred from a temple in Kyoto (present present Shogoinji) in 1686. The garden and courtyard garden of Katsuragi, Kyoto (the Yamashiro Valley) and the Grand Kannon statue is a masterpiece of Shingon's power. The temple museum, devoted to the Buddhist history, from an open to public view to a park, is a splendid garden.

On the annual festival of Kannon, the festival, cherry blossom viewing party, including other important parts, is held on a grand scale with 1000 participants, and a large crowd of people come to see it.

醍醐寺

醍醐寺は真言宗醍醐派の総本山で、平成六年（一九九四）に世界文化遺産に登録された。山上の上醍醐と山下の下醍醐から成る壮大な寺で、天曆五年（九五）に完成した東塔府城、最古の五重塔（国宝をはじめ、四万点に上る多くの国宝や重要文化財を有している）。

平安初期の貞観十六年（八七四）に理源大師聖空が、笠取山上醍醐に登って観音像を彫刻し、安置したのが当寺の始まりとされており、延暦七年（九〇七）に醍醐天皇の幼願寺となり、次第に大伽藍が整えられた。

応仁の乱や文明の乱により、五重塔を残してすべて焼失したが、慶長三年（一五九八）に豊臣秀吉が北政所らを醍醐の花見に誘ったことをきっかけに、秀吉の厚い掃拂を受けて復興された。

本堂の金堂（国宝）は、慶長四年（一五九九）に紀州現在の和歌山県湯浅の満願寺から移築したとされ、三学院展園（特別史跡及び特別名勝）は、普賢を豪華な桃山時代の庭園で、香吉の権勢をしのがせている。宝室館には、華師如来坐像（国宝）や香吉所用の黄金天目茶碗などが収蔵されており、毎年春と秋に公開されている。毎年四月第二日曜日には、千三百人を従えて盛大に行われたとされる当寺の花見に倣って豊太閤花見行列が行われ、多くの人でにぎわう。

真言宗醍醐派の総本山で、平成六年（一九九四）に世界文化遺産に登録された。山上の上醍醐と山下の下醍醐から成る壮大な寺で、天曆五年（九五二）に完成した京都府域最古の五重塔（国宝）をはじめ、四万点にも上る多くの国宝や重要な文化財を有している。

平安初期の貞観十六年（八七四）に理源大師聖宝が、笠取山（上醍醐）に登って観音像を彫刻し、安置したのが当寺の始まりとされており、延喜七年（九〇七）に醍醐天皇の勅願寺となり、次第に大伽藍が整えられた。

応仁の乱や文明の乱により、五重塔を残してすべて焼失したが、慶長三年（一五九八）に豊臣秀吉が北政所らを醍醐の花見に誘ったことをきっかけに、秀吉の厚い帰依を受けて復興された。

本堂の金堂（国宝）は、慶長四年（一五九九）に紀州（現在の和歌山県）湯浅の満願寺から移築したものといわれ、三宝院庭園（特別史跡及び特別名勝）は、華麗で豪華な桃山時代の庭園で、秀吉の権勢をしのばせている。霊宝館には、茶師如来坐像（国宝）や秀吉所用の黄金天目茶碗などが収蔵されており、毎年春と秋に公開されている。毎年四月第二日曜日には、千三百人を従えて盛大に行われたとされる当時の花見に倣って「豊太閤花見行列」が行われ、多くの人でにぎわう。

醍醐寺は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

醍醐寺は、伽藍が山上と西麓の平地とに分かれており、山上伽藍は貞観16年(874)に、平地伽藍は延喜4年(904)に整備が始められたと伝えます。その後たびたび火災にあい、16世紀末から17世紀初頭にかけて現在みられる姿に復興されました。

山上伽藍の薬師堂は、保安5年(1124)に再建されたもので、平安時代初期の礼堂をもたない仏堂の規模・様式を伝えています。また鎮守社清瀧宮拜殿は、永享6年(1434)に再建された懸造の建物で、意匠的には住宅風に仕上げられています。

いっぽう平地伽藍のうち、天曆5年(951)に建立された五重塔は、年代が明らかな建物としては京都における現存最古のもので、その外観は雄大で安定感があり、また初層内部に両界マンダラを描く点に密教寺院としての特色がみられます。金堂は、慶長5年(1600)に紀州満願寺の金堂を移築したもので、平安時代末期の仏堂の様式を残しています。三宝院の表書院は、豊臣秀吉による慶長3年の花見に際して増改築されたもので、寝殿造りの様式が取り入れられており、またこの横に広がる庭園も秀吉が直接指示して造らせた豪華なもので、池泉回遊式と枯山水が折衷されています。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録

京都市

それでは中に入ってみよう



正面前方は仁王門



境内のご案内

清瀧宮本殿
Seiryugu Honden



清瀧宮拜殿
Seiryugu Haiden

上醍醐寺務所
Kamidaigo Jimusyo

女人堂(成身院)
Nyonindo



弁天堂
Bentendo

祖師堂
Soshido

真如三昧耶堂
Shinnyo Sanmayado



不動堂
Hudoudo

伽藍
Garan

開山堂
Kaisando

如意輪堂
Nyoirindo



五大堂
Godaido



薬師堂
Yakushido

経蔵跡
Kyoizouato

醍醐水
Daigosui

寿庵
Juan

観音堂
Kannondo

上醍醐
Kamidaigo

受付
reception





金堂
Kondo



仁王門
Niomon



唐門
Karamon

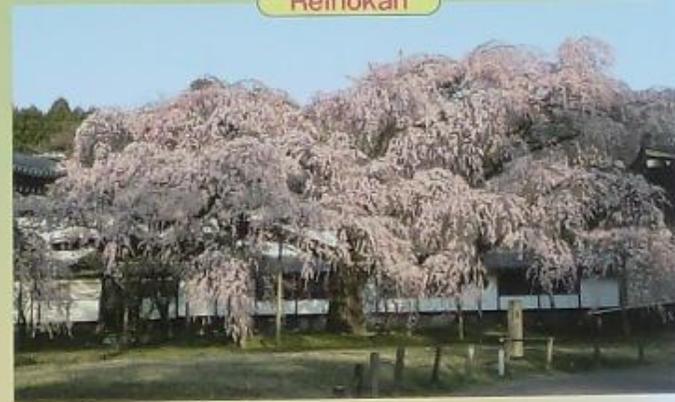
三宝院
Sanboin



総門
Somon

雨月茶屋
Ugetsutyaya

靈宝館
Reihokan



五重塔
Gojunoto

伝法学院
Denpougakuin

光台院
Kodaiin

清瀧宮拜殿
Seiryugu Haiden

清瀧宮本殿
Seiryugu Honden

報恩院
Houonin

防災広場
Disaster prevention park

WC

受付
reception

受付
reception

P

BUS STOP

WC

醍醐小学校
Daigo Elementary school

世界文化遺産 総本山醍醐寺

ここは豊臣秀吉により再建された三宝院で、桃山時代の池泉回遊式と枯山水が折衷された庭園があり、特別史跡及び特別名勝となっている



これは三宝院唐門(勅使門)/国宝/1599年建立





さて、これが仁王門(西大門)/1605年の再建









さて、ここから金堂、五重塔他を目指す



これが金堂/国宝/平安時代後期の建立/紀州湯浅の満願寺本堂を移築したもの/移築時に屋根が、檜皮葺から本瓦葺に変更された



平安時代の大型密教本堂で、人が仏堂内に入り始めた初期の段階の本堂形式という



時計回りに回ってみる



何度か改修を受けており、立ちの高い入母屋屋根は近世風で、移築時の改修であるという



左妻面/金堂内に人が入るようになると縁と高欄が付くようになり、地面からの湿気を防ぐため亀腹が堂下に設けられているという



背面



右妻面/妻飾りは豕叉首(いのこさす)



組物は平三斗(ひらみつど)/中備は間斗束



さて、これが五重塔/国宝/平安時代(951年)建立



相輪部の高さは総高の3分の1となっており、また初重に対する五重目の塔身幅(遞減率)が小さく、安定感のある塔になっている



平安時代までの塔は、基壇上に直接建てられるが、時代が下ると基壇がなく、初重に縁が付くという



組物は三手先、通肘木(組物を繋ぐ横木)は二段、軒は二軒平行垂木



上層部分を見る



これは不動堂



この奥は祖師堂



この日月門を潜って先に進もう



これは鐘楼堂



これは観音堂(旧大講堂)



前方は弁天堂/昭和5年建立



さて、これはこれまでの建物があつた下醍醐から上醍醐への登山口にある成身院(女人堂)/江戸時代初期の再建



いよいよ、ここから上醍醐へ登ることになる



少し登ったところにある「檜山(豊太閤花見跡)」



醍醐の花見

慶長三年（一五九八年）三月十五日、秀吉は一世の善美を尽くした花見をこの槍山で催した。千疊敷きとも呼ばれる平地には新しい花見御殿がたてられた。又、女人堂から槍山の間には、長束正家をはじめ各武将により趣向をこらした茶屋八棟が設けられた。

この花見にさきがけて山内馬場先から槍山に至る両側には畿内より集めた桜の木七百本を植えさせた。

花見の当日、秀吉は秀頼・北政所・西の丸（淀君）・松の丸・三の丸を従え、山下の桜が一望できる槍山の御殿で花見の和歌を短冊にしたため桜の枝につり下げた。秀吉の豪華を誇る豪華な花見であった。

〔保存資料〕重文・醍醐花見短冊（一三二番・愛宕館所蔵）
重文・純淨観（旧花見茶屋・三霊院に移築）

總本山 醍醐寺

その辺りの遠景



さて、更に登って行く



不動の滝と不動明王



そこから少し登ったところに音羽魔王大権現社



更に登るとちょっとした休憩場所がある



そこにはこんなものも



さて、更に進む



ここは上醍醐寺務所/いよいよ上醍醐である



左手の崖には清瀧宮拝殿が建つ



清瀧宮拝殿/国宝/室町時代(1434年)再建



南側は懸造りとなっている/左手に説明板が立っている



懸造りは舞台造りとも呼ばれ、その感じが出ている



醍醐山は弘法大師の法孫である聖宝理源大師の開創になる。醍醐とは五味のなか最上の滋味といわれ、それは牛乳を精製し酪となし精鍊を重ねて出来上つたものをいい、弘法大師は真言の教えをして一切仏教の最勝のものであるとし醍醐をもつて喩とされている。

醍醐寺縁起に聖宝尊師は貞観十六年（八七四）、「未だ令法久住の地を得ず、普明寺に於て仏法相應の靈地を祈念す、その祈請に応えて五色の瑞雲、当山の峰に聳え云々」とあり、また、「師、雲を望み訪ねて嶺にいたり、白髪のお翁来りて古葉をかき分け水を掬んで、喫して曰く、ああ醍醐味なるかなと、師その化人なるを知りてこの山に伽藍を建て密法を弘めんとす、翁曰く、転法輪の勝地たり、密乗を弘めて衆生を利せよ、われ山主なり、永く和尚に献せん」と忽然として消え、そこに清涼な水が滾々と湧き出ていた、後に石を疊んで他日しのしとす、更に山に大柏樹ありて三宝鳥その上に鳴く、その柏樹を伐り梵音加持し准胝、如意輪の觀世音を刻み堂宇を建立し、翁の言をかりて醍醐寺と名づくとある。

延喜の聖帝醍醐天皇の叡信厚く勅願寺となり、山上山下に堂塔が建立された、このあと聖宝尊師の弟子觀賢僧正が醍醐寺の第一世の座主となり朱雀、村上兩帝は五重の大塔を建立し、旧記によると五百有余の堂宇が立ち醍醐山万代の基盤が確立した。

寺史に傑出した高徳を挙げれば、弘法大師の謚号奏請に力をいたし高野山の廟窟を開いて親しく更衣し奉つた觀賢僧正、平安期に三寶院を開基し醍醐山の繁栄をもたらした勝覚僧正あり、また東大寺再建に活躍した俊乗坊重源上人も、山に住み宋版の一切経を施入し西大谷に湯屋を建て西国巡礼に熱湯を供したといふ、足利尊氏が深く帰依した南北朝の歴史に名を留める賢俊僧正、また南朝復興に画策した弘真僧正、足利幕府の黒衣の宰相と義満の支持を受けた満濟准后等々枚挙にいとまない、文明二年の戦火により醍醐山の堂宇が悉く消失したが、豊臣秀吉の帰依を厚くし醍醐寺を中興した義演准后が、慶長三年三月有名な太閤秀吉「醍醐の花見」が行われたのを期に、ほぼ現在の伽藍に再興されたのである。

上醍醐への道は険しく難所であるが、開山聖宝尊師は宇多天皇の勅を奉じて大峰山修行の道を再興し役行者の芳躰を明らかにした験者であり修験道の中興の祖と仰がれていることは忘れてはならない、現在の上醍醐から石山寺へ抜ける巡礼道も、昔は験者の往来する行者道でもあった。

階段を登って東側から見てみる



東側から見た清瀧宮拝殿/こちらが正面で妻入りとなっている/向拝は軒唐破風や墓股で装飾されている



国宝

清龍宮拝殿

創立は寛治二年(一〇八八)であるが、此の堂は
永享六年(一四三四)に再建され現在に到っている。
邸宅風の手法を用いたつゞましやかで親しみやすい
建築で、古風で純粹な伝統的手法が繊細で
垢ぬけした姿で活かされており洗練された
気品を備え、高く評価されている。

垂木は二軒で、地垂木は繁垂木(しげだるき)、飛燕垂木は疎垂木(まばらだるき)となっている



半蔀(はじとみ)や引違格子戸を備えた住宅風の作りとなっているという





屋根の取り合い部分



その取り合い部分の軒下



高い位置から屋根をしてみる





さて、これはその右手にある「醍醐水関伽井(あかい)」



醍醐水

貞観十六年六月（八七四）聖実理源大師当山
開創のみぎりこのとろに於て地主神横尾明神の
影現にあひ「永く此の地を師に奉りて
よく宗教を弘め群生を利濟せよ。吾も亦護持せむ
と告げ、落葉をかきわす。その下から涌出し、
泉をくんで」あ「醍醐味なる哉」の言葉をおこして
忽然と姿を消されたと伝えられ、尊師は
そのとろに石をたたんで開加井とされ並取山の古名を
あらためて醍醐と称せらるるにいたったもの。
醍醐寺弁祥の霊泉である。
醍醐とは乳製品で五味の最上なるもの名稱で
あるが、この寺の場合、心の糧として仏法が
最高であることを、いわんとするものである。





観湖水開仙井
みほけの井
朝仙は千とて
泉のまはら
今日も清く水
別物とは松とよの春候
さる神水とよの春候
さる神水とよの春候
水の底に神神とよの春

醍醐水關伽井

みほとけの供する

關伽は千歳へて

拳のまほらに

今日も湧く水

關伽とは仏さまにお供

へする淨水であります

さよらかなじでござんす

水の恵に感謝しますよう

さて、拝殿の上方にある清瀧宮本殿を見てみよう/これは手前にある横尾大明神社





これが清瀧宮本殿/昭和14年に焼失し、再建されたもの







ここは平成20年に焼失した准胝堂(じゅんていどう)があったところ(右手の更地)



その脇にある石塔



さて、少し登って行くとこんな風景が/これは経蔵跡(昭和14年焼失)らしい



その経蔵跡から北方向を見上げると薬師堂が見える



これが薬師堂/国宝/平安時代(1121年建立)



組物は平三斗、中備は間斗束、扉は板唐戸







乱石積基壇に建っている



国宝

薬師堂

此の堂の創立は、延喜七年で開山聖宝理源大師の時に遡るが、現在の堂は保安二年（一一二一）に再建なったもので、山上伽藍に於ては最古の建造物で数少ない平安時代の遺構として貴重なものである。堂内墓股は、所謂本墓股の最も古い例の一つである。本尊薬師如来座像は脇侍の日光、月光、両菩薩と共に国宝に指定されており聖宝の弟子会理僧都作になるもので貞観後期の豪快な気分を、十分に感じさせる優美な作品である。又、歴代の聖帝が御病気の平癒を祈られる度に金箔を尊像にはり加えられた事は有名であり「箔薬師」の名で厚い信仰を集めている。

妻面は両サイドの間が中央の二間より広いのが特徴という



薬師堂から先ほどの経蔵跡を見下ろしたところ



更に登って行くと五大堂がある/昭和15年再建/手前は理源大師像





五大堂

醍醐天皇御願により、延喜七年(九〇七)に建立された

五大堂であるが、再建の都度に祝融しゅくろうにあい

慶長十一年豊臣秀頼再建の様式を伝え

昭和十五年に再建されたものである

お祀りしてある不動明王、降三世夜叉明王、

軍荼利夜叉明王、大威徳明王、金剛夜叉明王、

国土安泰、消除不祥の御誓願をもち、”五大力さん”の

通称で尊崇され、毎年二月二十三日仁王会

大法要が厳修されて盗難除、災難身代りの

霊符が授与されている。





堂内を見る





更に登って行くと、いよいよ醍醐山頂に着く/これは如意輪堂/重要文化財/1606年再建





重要文化財

如意輪堂

此の堂宇は、開山人師が住持として且に白じの
如意輪觀世音菩薩の像を祀つたに由り深い

ものであるが、再三焼失し其の都度再建され
現在の建物は、慶長十一年に豊臣秀頼により
再建されたものであるが、その木造りは全く
大阪に於いておこなわれたものである。

醍醐寺新要録によれば、『結構は見前代の堂より倍
とあり、此の堂の再建は時の美産と、
昔時の堂の簡素さがしのばし。

本尊は二臂如意輪觀世音で、豊家ゆか
りの女房衆の寄進になるものであつた。





さて、これは開山堂/重要文化財/1606年再建







重要文化財

開山堂

最初延喜年間に建立され次いで寛治六年(一〇九二)に改築されたが、其後二回にわたり祝融しやくゆうにあいに再建されたもので、雄大な桃山時代調をよく発揮した山上最大の建造物である。其の様式に於ては注意を要する点が多々あるが外観に於ては、側面前端の間の扉で、ここでは縁が切断されており、扉が亀腹上にまで達しておることである。

堂の内内陣には、中央に開山聖宝理源大師、左に弘法大師、右に醍醐寺一世座主観賢僧正の像が奉安されてある。





参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%86%8D%E9%86%90%E5%AF%BA>

<http://www.geocities.jp/urizanesan/photo/daigoji2.html>

<http://www.y-morimoto.com/saigoku/saigoku11a.html>

<http://wilderness.sunnyday.jp/temple/daigoji/daigoji.htm>

http://www.d1.dion.ne.jp/~s_minaga/hoso_daigoji.htm

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/092/index.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/093/index.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/030/index.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Ky20.html>

